

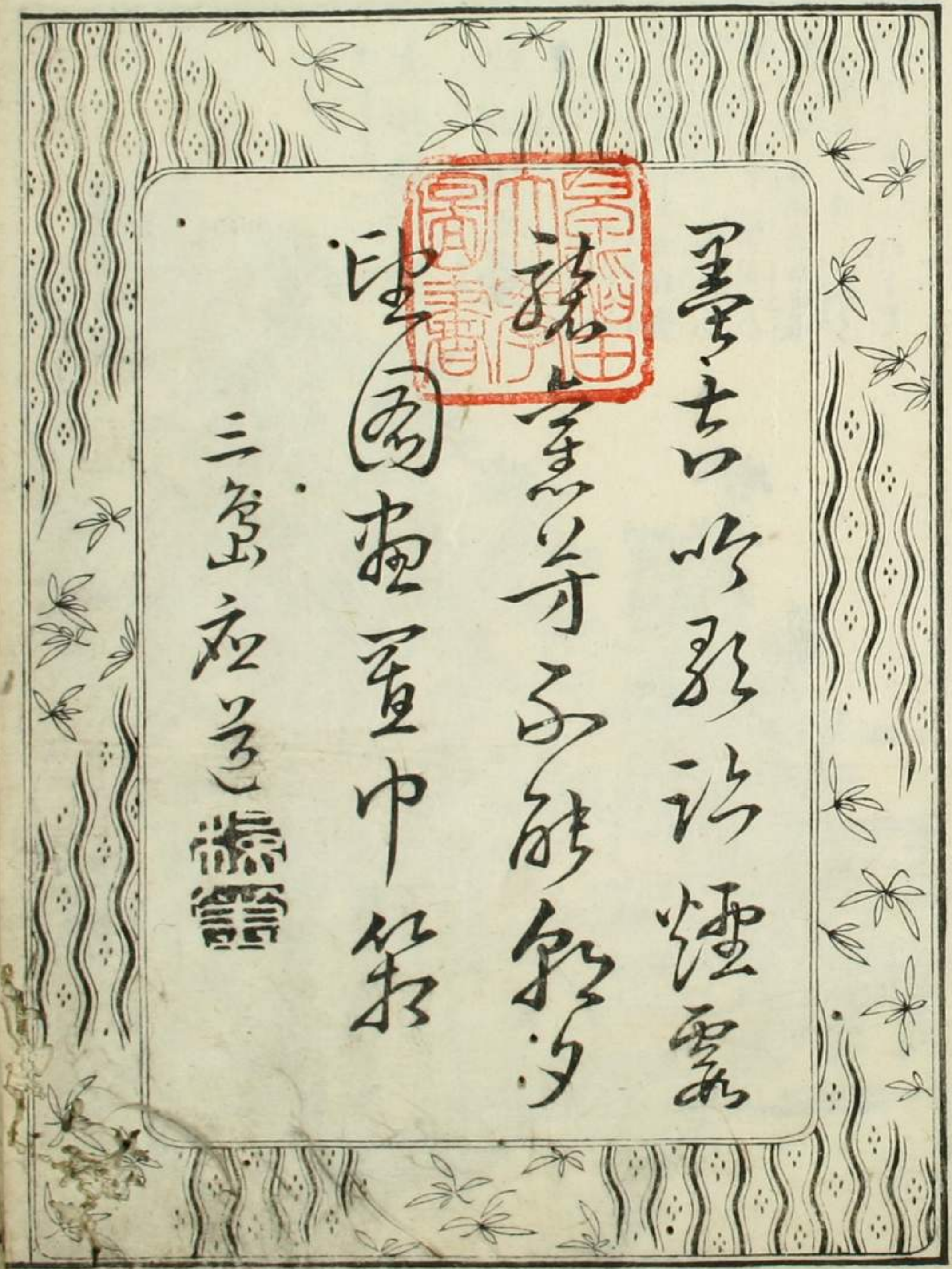


住吉名勝園會
五
止

ル 4
4795
5



1795
5



墨香吹散淡煙雲

疏意牙牙能解少

望西窗墨中第

三原應是歲

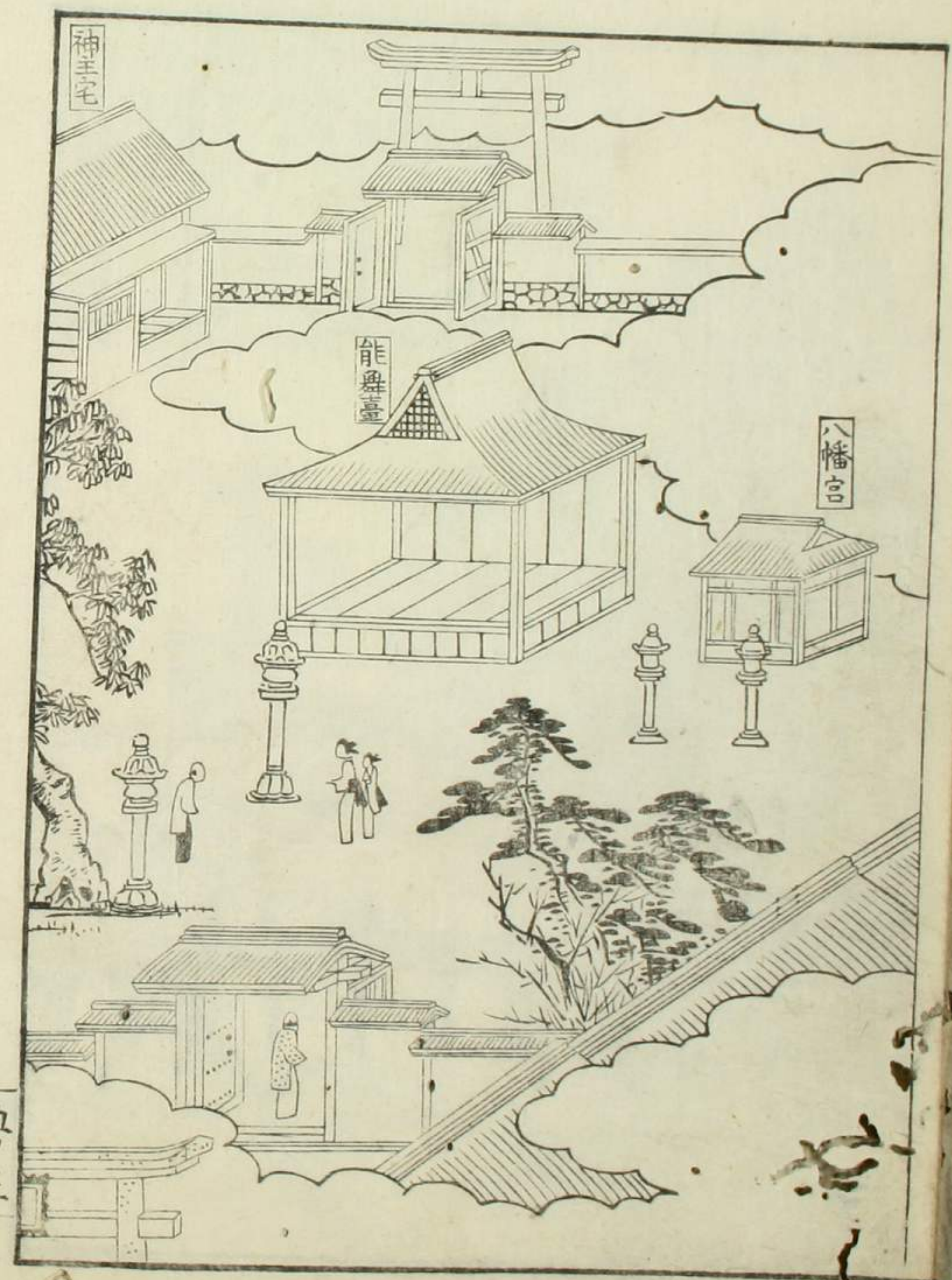
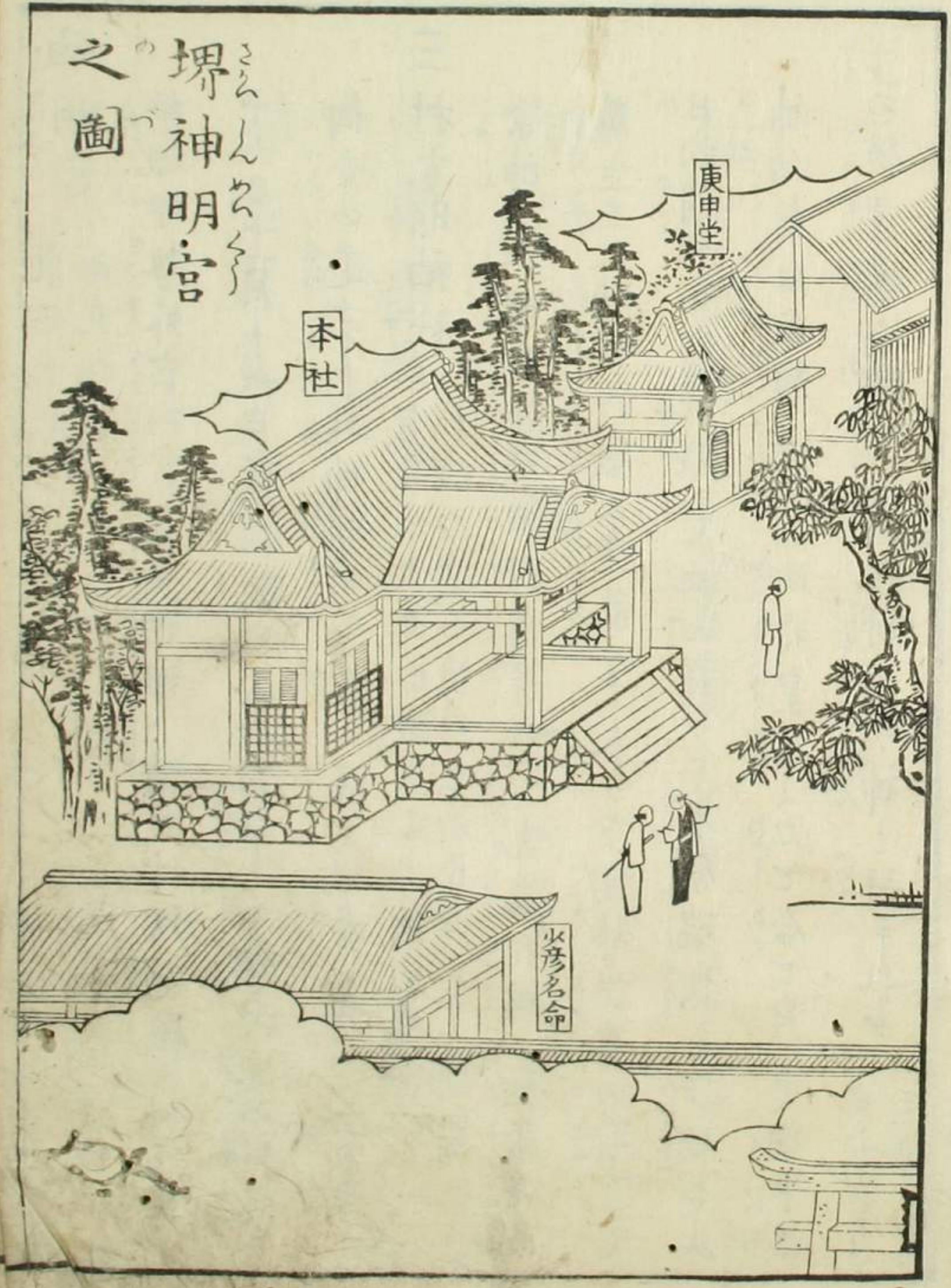


大和橋神輿
受取渡之臺

石
六月荒和大後神輿
堺の宿院御幸の
時此所を攝州乃
加長泉州の加長
神輿と渡奉り
還内節此所にて



受取奉りて受取
渡場
大和橋長廿二十
間元と大和川と大坂
御城のまじり橋の
下流れを去る元源
十七年河内柏原村
西真直と浅香山
と堀切守の大和川
とやれり



神明宮 東西十間 南北九間

祭神伊勢外宮内宮春日明神八幡太神代相殿元九丹

十六日十月十六日祭礼執行六月住吉の神樂堀の宿院

御幸の道すこ此神明町を遙く隔て供奉しゆり少有事

三村大明神社 有泉州大鳥郡鹽穴下條開一丁目

祭神へ事勝食勝國長狹尊号鹽土老翁相殿二座素戔嗚

尊生玉大神也抄塩土老翁奉りて伊特諾尊の御子と

日向國小戸の鹽瀬と誕生まじく葦原瑞森と移住り

神功皇后三韓退治の御時皇后ノカと合せし夷國平治

の後當津に跡をたれ三村大明神と拜まれり

住吉名勝圖會卷之五目錄

住吉神樂受取渡場之圖

堺神明宮之圖 同大寺之圖

同宿院之圖 同甲社由来

同方違宮之圖 同向泉寺之圖

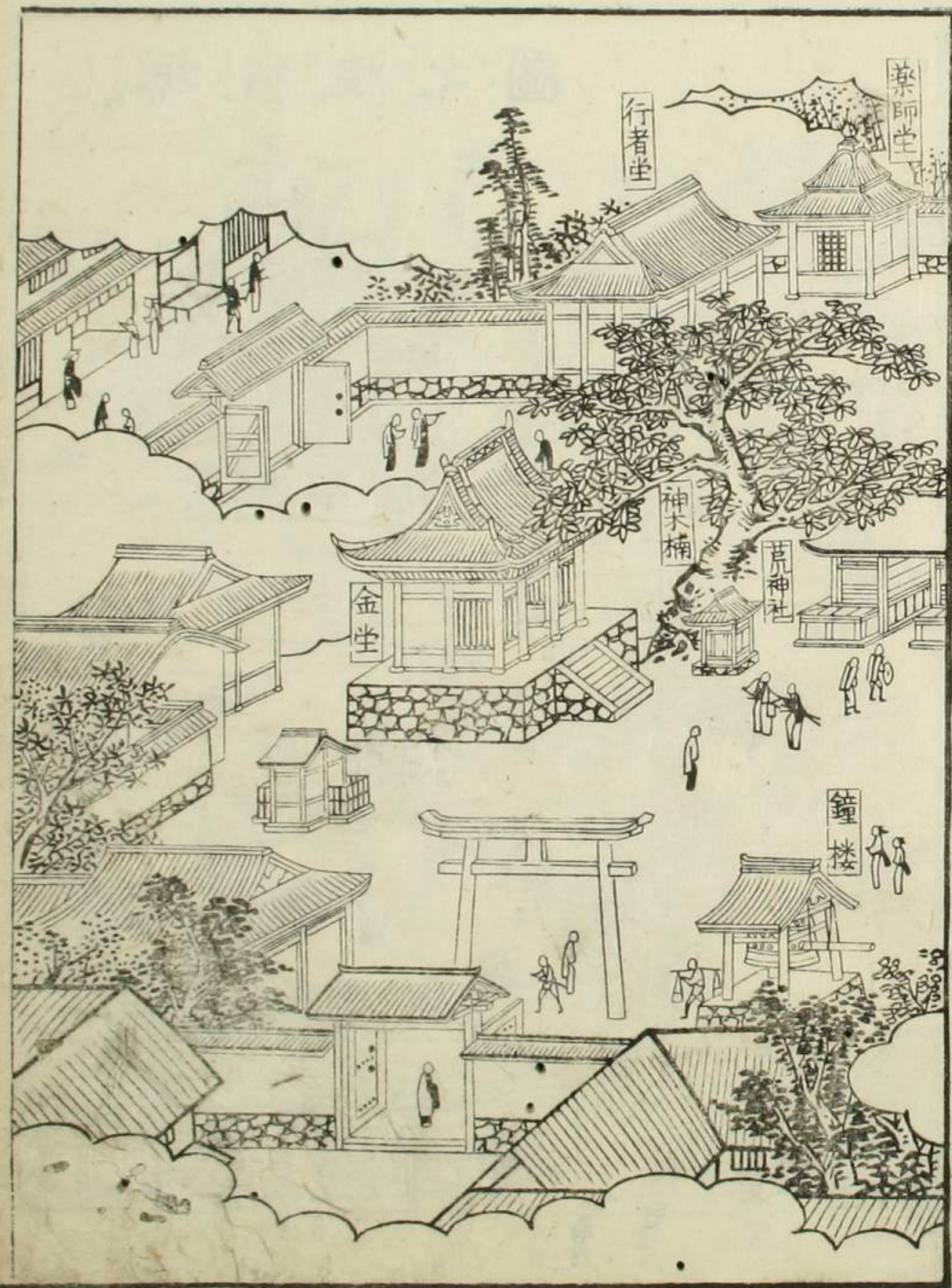
住吉踊之圖 舟之町之由来

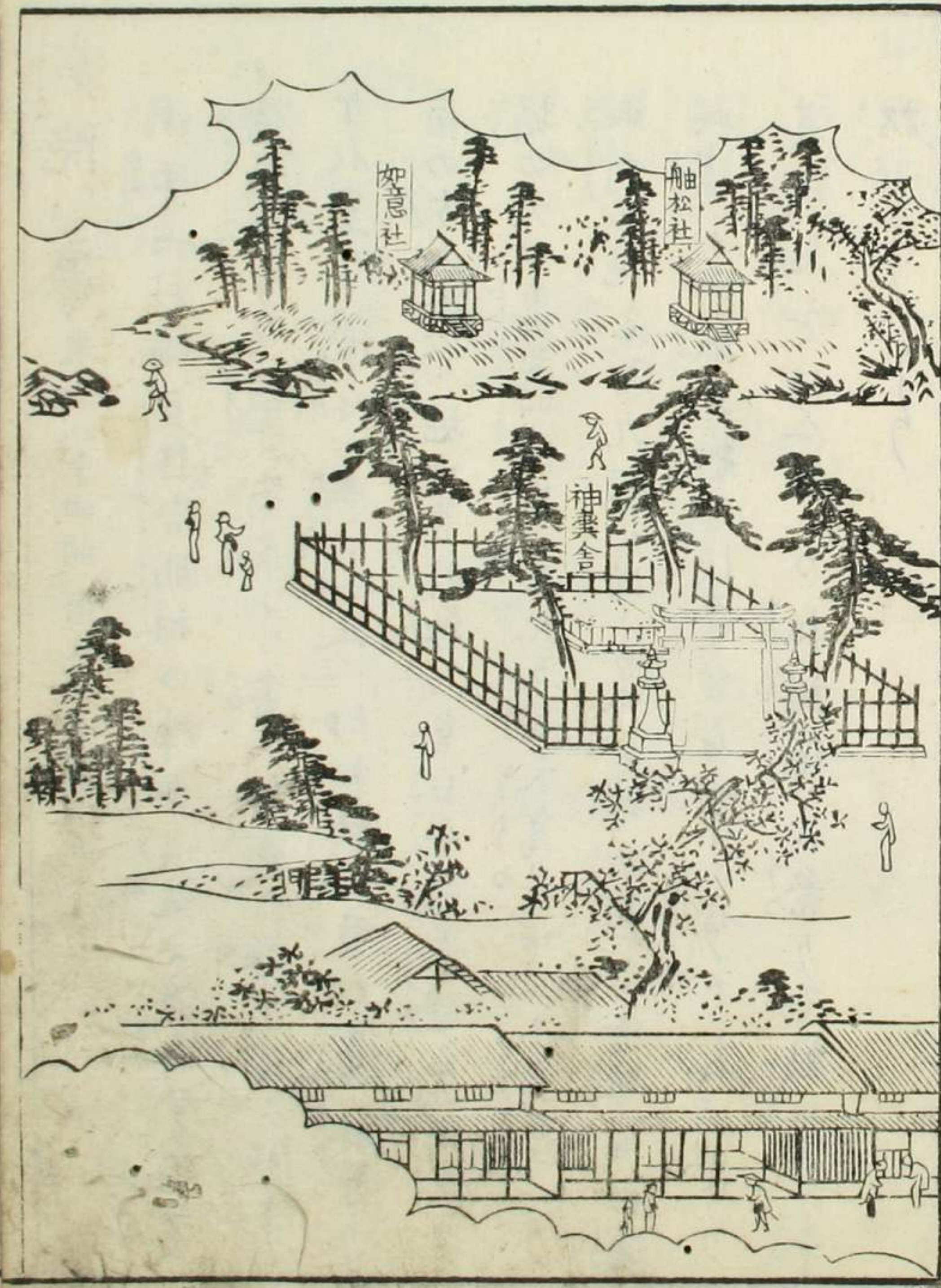
神詠和歌圖
 西林寺之圖
 赤染衛門奉和歌圖
 神木之由来

神講和歌圖
 蛙詠和歌圖
 小集樂之圖

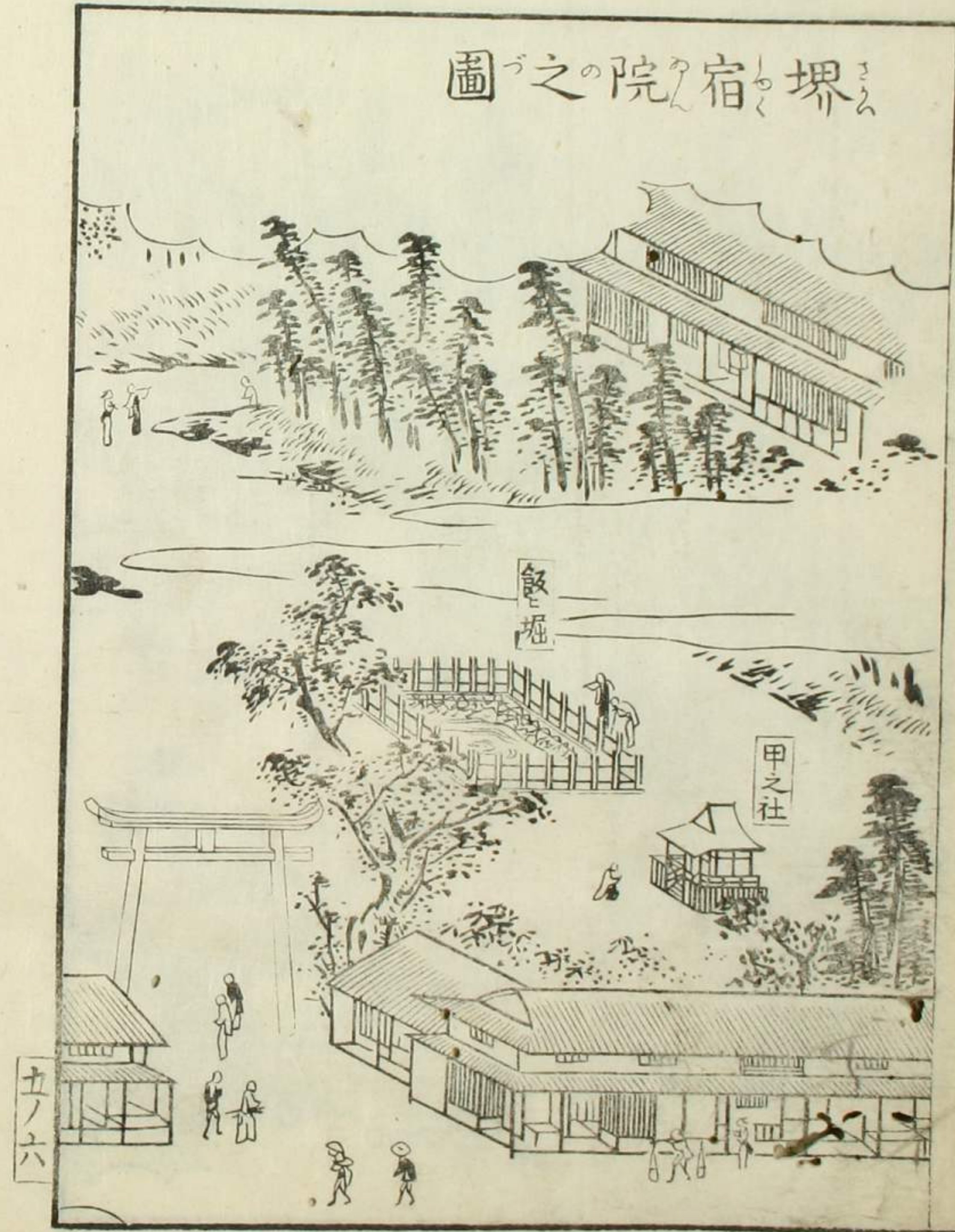
以上

中ノ宮居ノ事ハ故 其後人王四十五代聖武天皇天平十六年
 三村明神トシテ 行基上人ノ勅シテ此地ニ一字ノ道場ヲ建テシメ密乘山
 大念佛寺ト稱シ俗呼テ大寺ト稱シ 祖師弘法大師真言
 宗無奉寺也
 金堂 中尊藥師如来 左釈迦牟尼佛
 右阿彌陀如来日光菩薩十二神將
 三重寶塔 本尊大日如来 聖德太子御作之四天王
 鐘樓 食堂 已下摂社
 天照皇太神宮 外宮 荒神社 大寺の鎮
 内宮 天神社 安住寺の鎮守也奉寺
 觀音堂ハ共ニ燒亡レ 馬堂明神社 甲明神社 稻荷明神社
 舟玉明神社 夷社 大黒社 如意御前 大寺より三町長
 室巖菴より 影向石
 鉾塚 不盡菴 藥師堂 衆徒六坊 西の門密乘山の額石
 の鳥井三村大明神の額ハ竹内の門主良尚親王の御筆ナリ





堺の宿の院之の圖



宿院

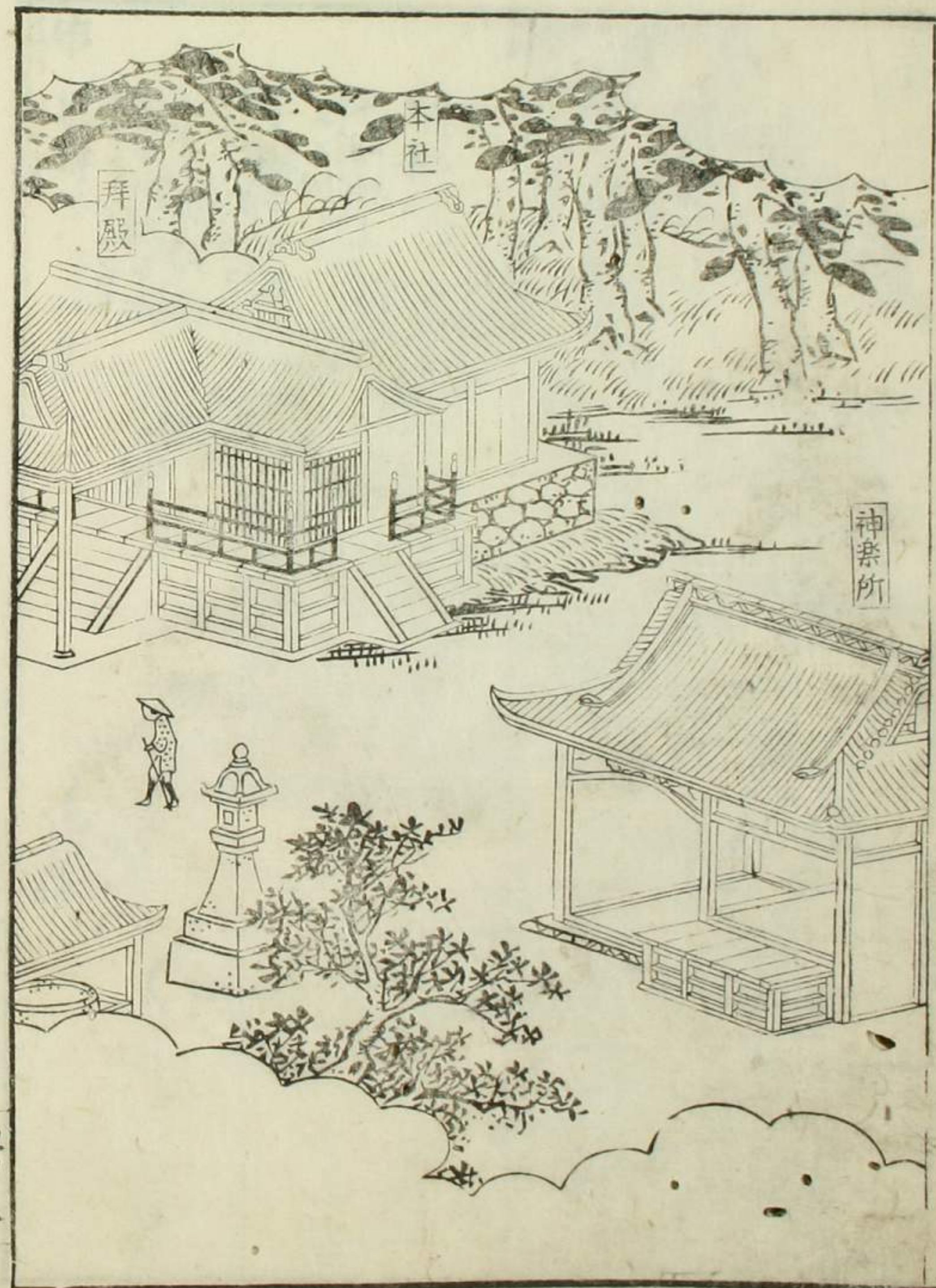
境内東西八十四間南北六十間

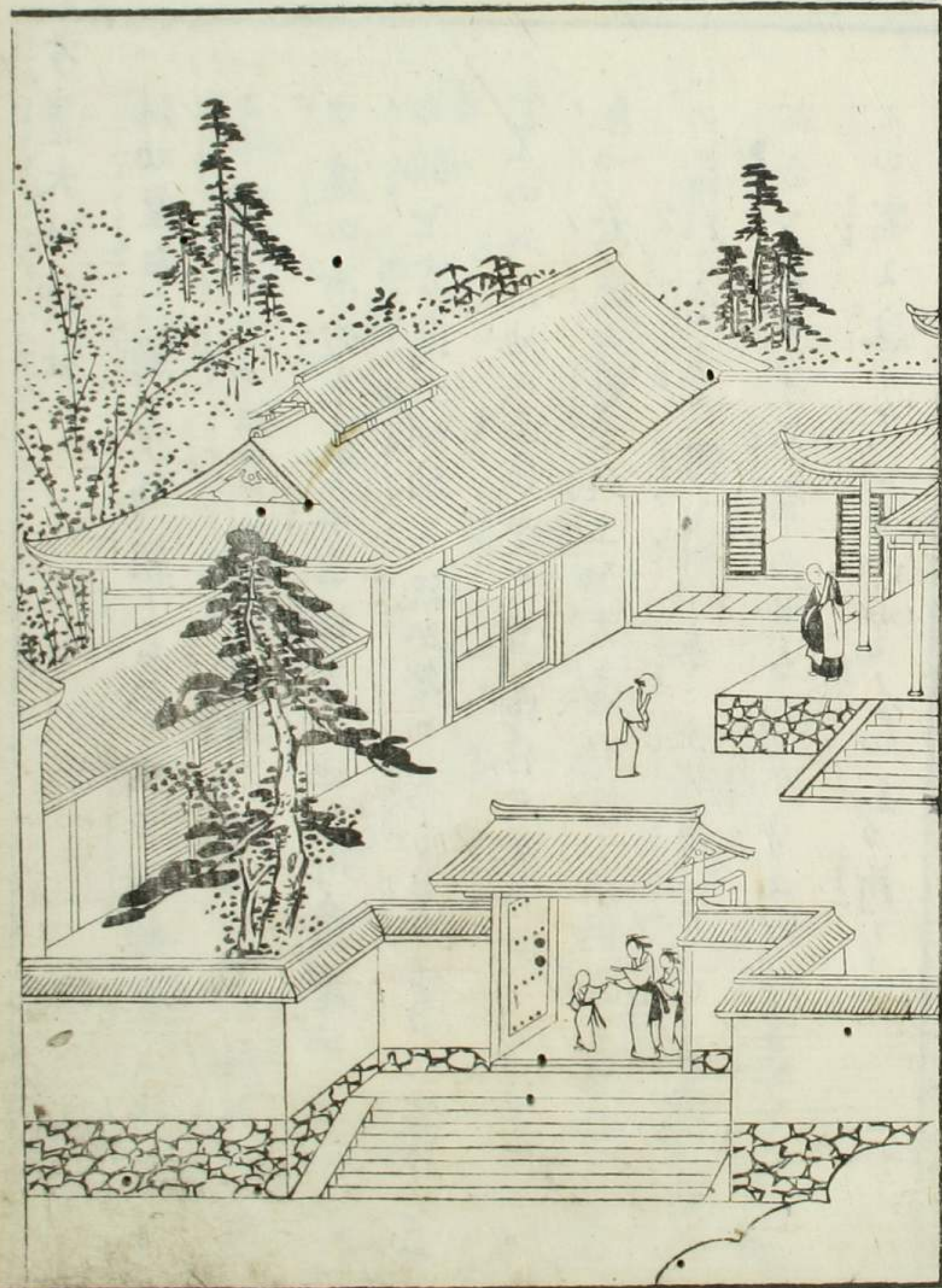
例年六月晦日住吉明神の神樂此地へ渡御なせり
御施所なり故に宿居も書り神樂の假り居すれども
なれり境内に祭る小社の舳松社如意社甲の社なり
南の方の飯と堀の昔時神功皇后干珠を埋り如かり
堀の大サ東西四間半南北五間大鳥井より小鳥井より
此所の地名と九艘小路とを神功皇后御歸陣の時
此浦へ御舳九艘とほりせりて名はけり
其御舳をほりきり松樹神に祭りて舳松丸奉
松よりなり

甲の社

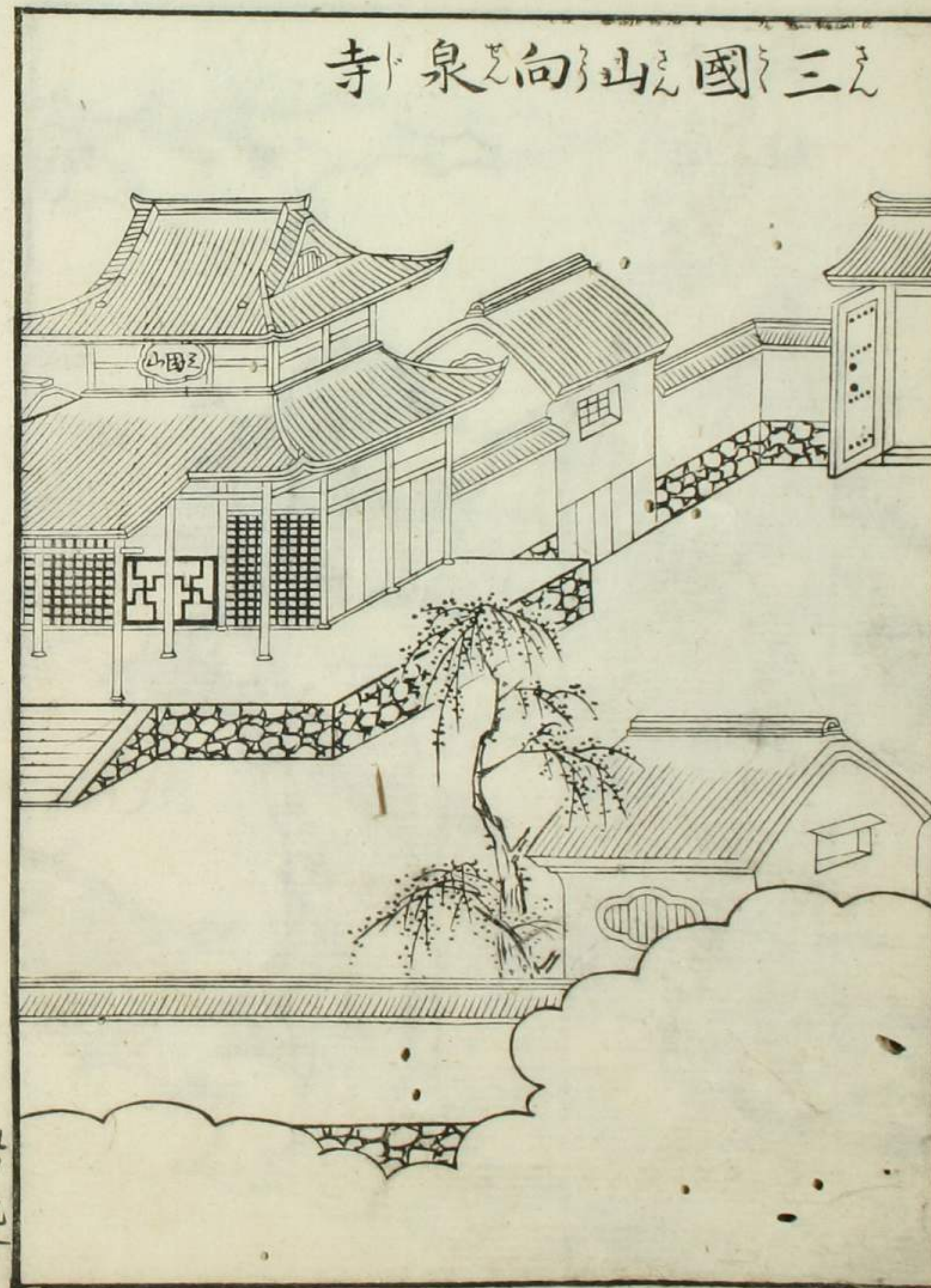
皇后三韓平治
御歸陣
甲明神と
奉る







三國山向泉寺



方違大明神社

神功皇后三韓より歸朝して住吉明神爰に住居せし
 方違の浦後まゝて今の住吉の地へ所鎮座せしむ
 旧跡と方違大明神と況い祭り奉る是よりて家宅を營
 むもの此社地の土に受て其造作の地よりて旅立
 船中長途の時此土と方違の守り例年五月晦日當社
 の祭礼として土の糍と供へ奉る土俗羣系して方違の御礼奉
 此祭と拜受す平常の日と向泉寺の別當是と終り諸
 人の需ふ應へて何より人を知るなり。



柏より

踊ふ手

あまのこ
 早
 子

あまのこ
 早
 子

一觀亭

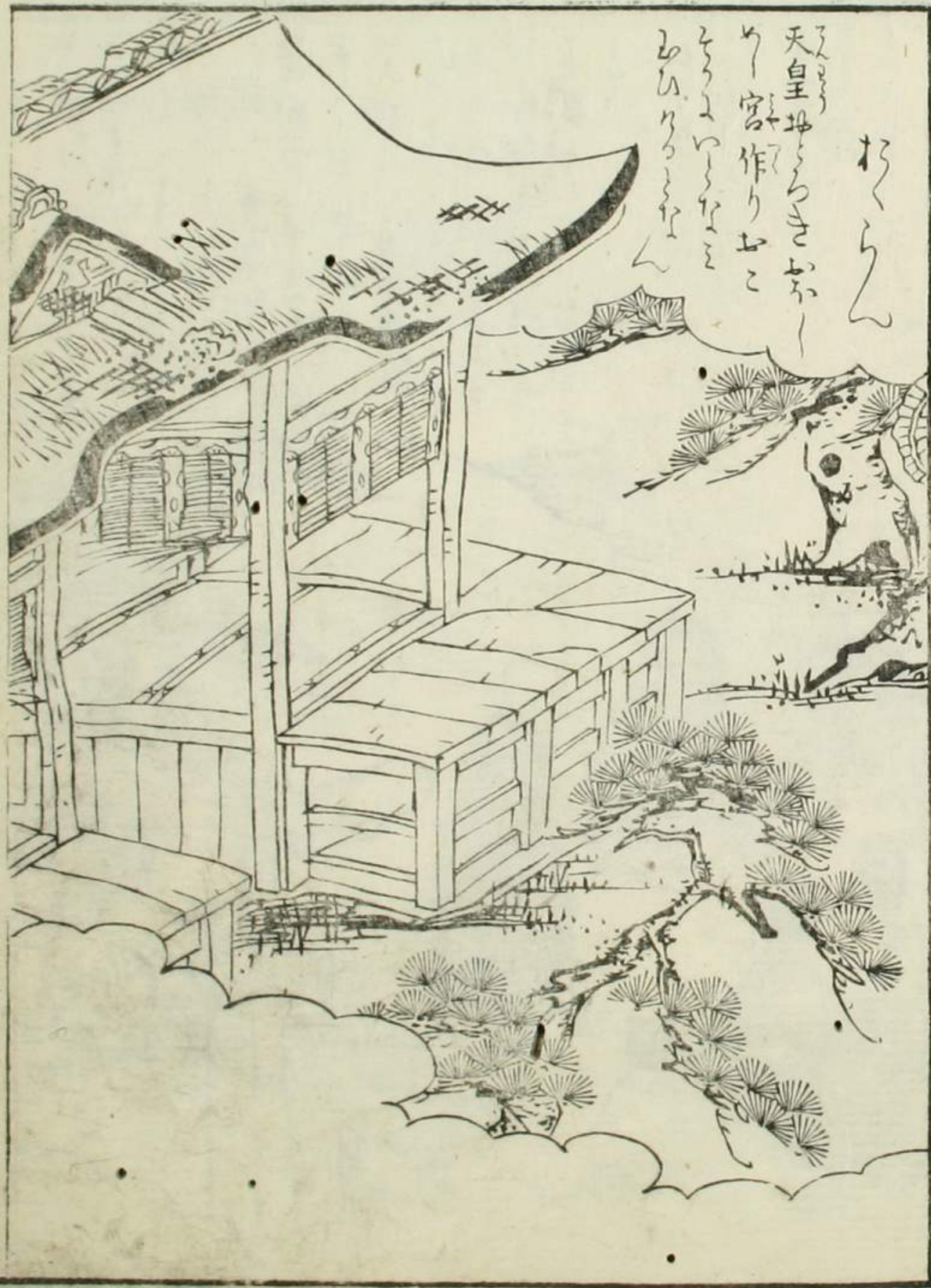
鳴鳳



此車兼邦々百首の
 海も見ゆ
 舟の
 舟の津
 八十艘今の
 着より
 浦と八十と
 船



神功皇后
 武庫の
 浦
 舟の町
 舟の津
 舟の



天皇
宮作り
あひら

ねら



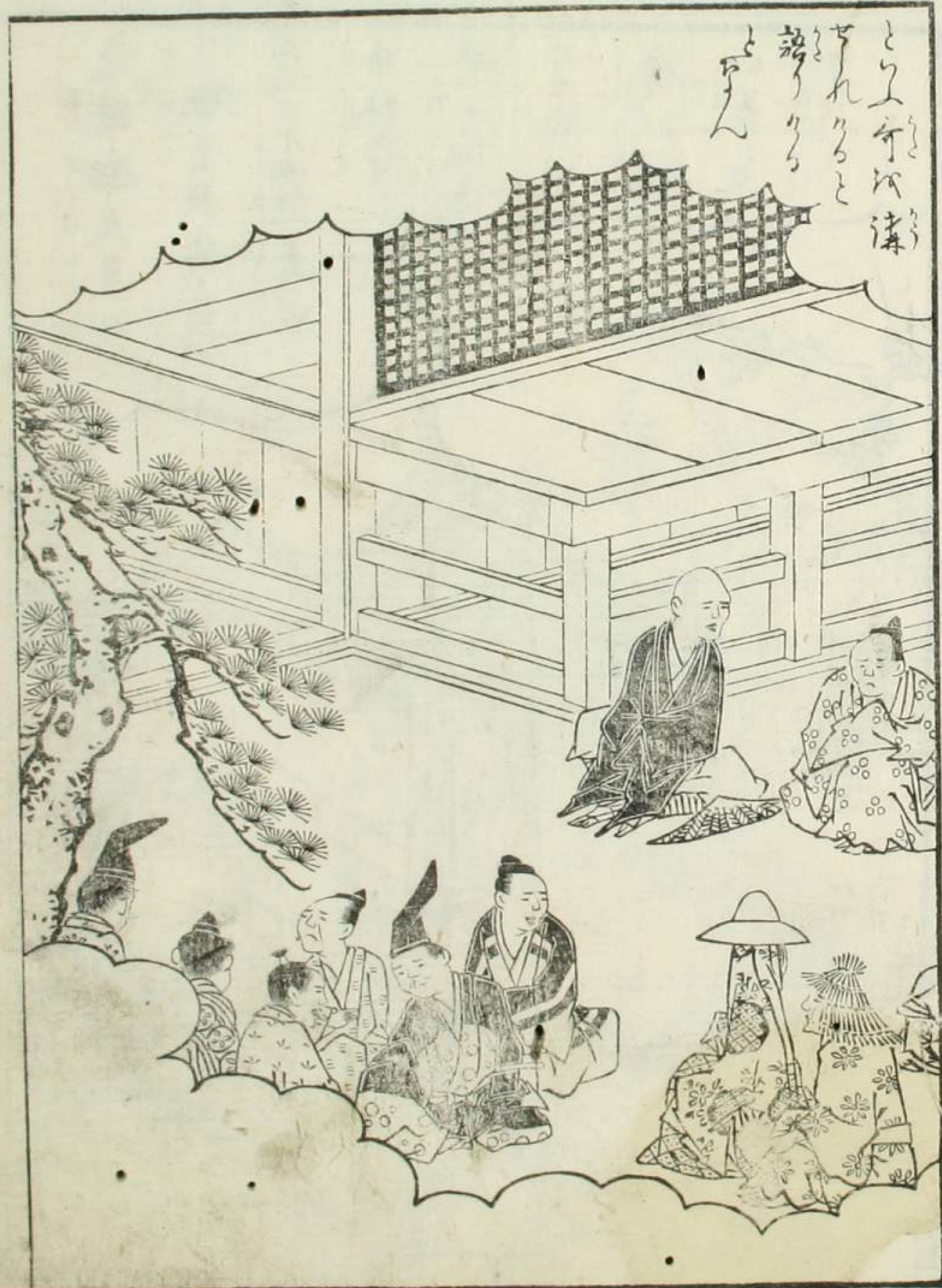
天子住
聖武平城仁明文德
後深叶后鳥羽龜山后醍醐
後村上中も文徳帝
天安元年住を御幸
あひら宮居くつれ
御神殿より明神の御奇

夜や寒
夜

あひら

あひら

霜や



とく守河津
 せれろと
 誇ろと
 とん



井蛙抄 白ういり
 西國よりよりくるが
 住去るよりて通夜
 侍りくる事いし社
 の前より僧俗男女
 貴賤をわたりけり
 あり由委人あり
 一獵人とすう
 かりてく有一悪
 衣の僧一人ありける
 後御殿りや入られ
 て後の高き沖聲
 とて
 んりき身も
 ろんいれ
 ちと
 木の夕暮



後村上帝
御製

我の心
西の林に
梅の花
みずの
はたけ
と
は
は



後醍醐天皇の
大納言典侍
西住吉の
西林寺
所住住持
の時彼
寺に梅
の花と
はたけ
は



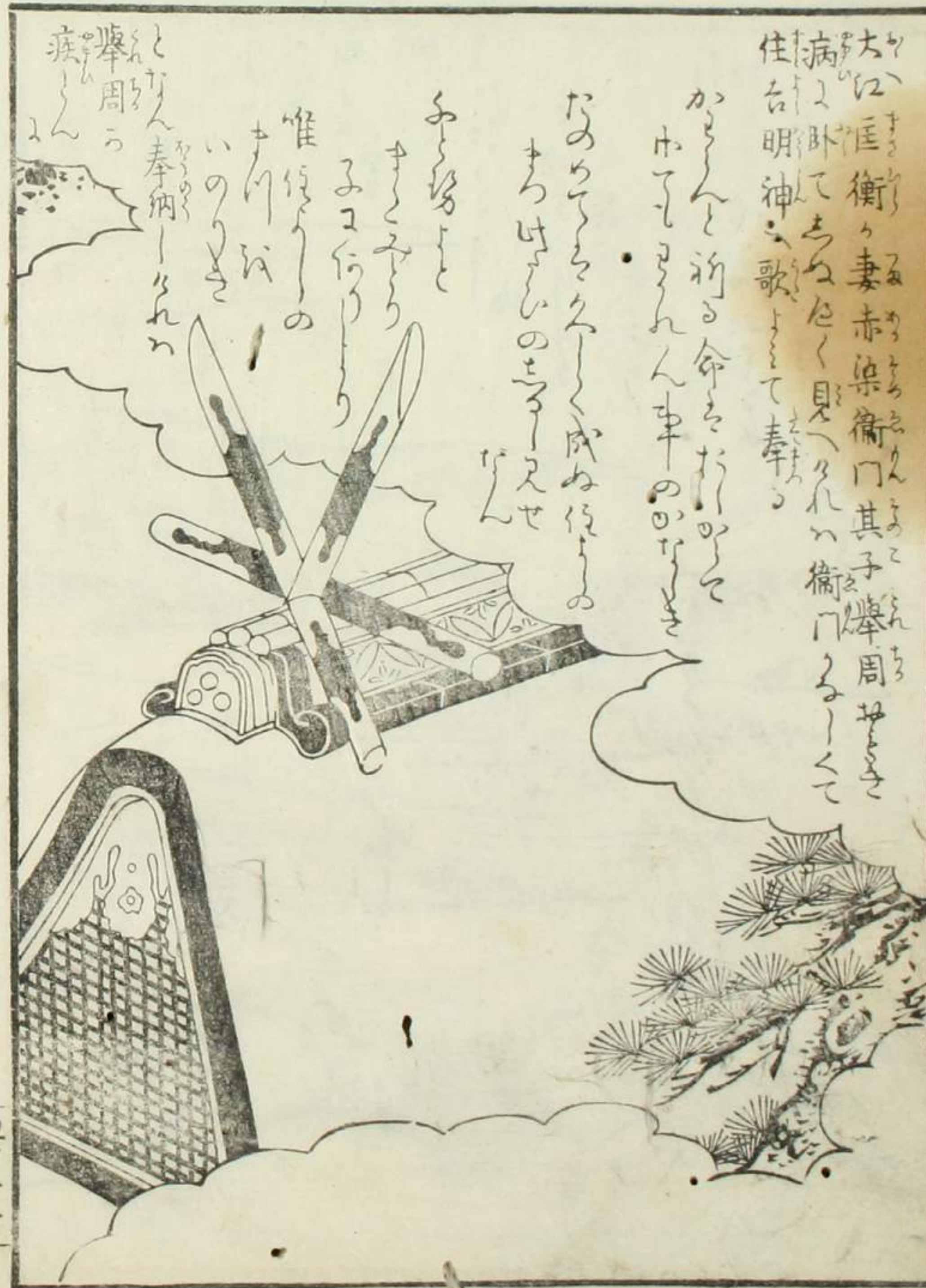
ちうまふれ
 中まふる
 人まふる
 うまふる
 舟まふる
 板まふる
 すまふる
 の
 其まふる
 住まふる
 浦まふる
 のまふる
 住まふる
 浦まふる
 のまふる
 住まふる
 浦まふる
 のまふる



ひま
 紀の義定
 とくま
 の美目
 てたる
 めの美目
 をい
 あいて
 後
 ぐ
 み浦
 て



いさなり
とらん



大江匡衡の妻赤染衛門其子擧周也
病臥てあななく見へたる衛門より
住持明神の歌よみて奉る

かゝんと祈る命をたのむ
かゝるもれん車のおり
たのむもれん車のおり
まらけいひのまらけいひ

かゝるもれん

まらけいひ

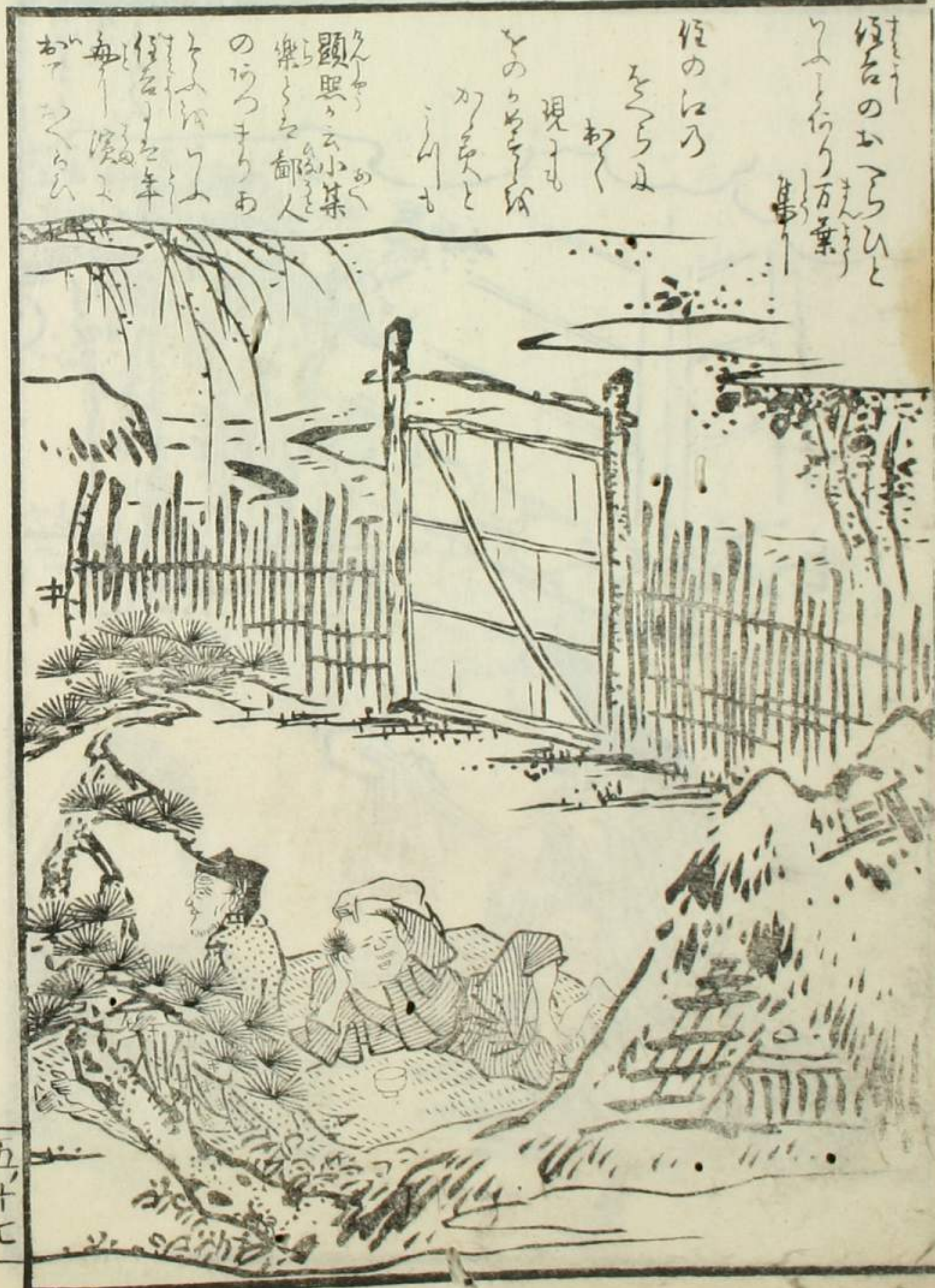
まらけいひ

まらけいひ

とらん奉納し奉る
疾しん



とて遊
 けり
 山里の人
 去のころ
 ありり
 野を
 いふく
 お
 山



佐の江乃
 を
 現
 の
 久
 顯
 樂
 の
 と
 毎
 か

当社松樹と神本と
 崇神天皇御
 夢津の國
 住吉の浦と覺と
 大空より暁と
 光輝照りぬと見
 りひて鶴と覺ぬ
 する人と住吉の浦
 三本の松樹さより
 足と相せの松と
 崇神天皇御
 御製と
 朕とぞ久と御
 ぬほりの岸の
 姫より貴代経



神とて
 明神天皇と現
 一とて
 くらげや瑞籬の
 久き代とつと
 九ヶ瑞籬と
 崇神天皇大和の
 都瑞籬の宮
 かくしと
 此神詠と
 何れの點の
 名譽
 初下



おのゝころりふうしぬきりすの留てふてな
けしむせをなのちるまはつ支那のちるまはつ
陸はとをちあむり氣平かちちせまたのつ
ま林のちしれもあらうそふらあむる
の強をたはえたる見林しぬきりすの留てふてな
つて我強りまえちうむまあむすのころり
強い人衆も奮けありの國の強地なむれ
先一をいれぬきりすの留てふてな
心るははちしぬきりすの留てふてな
ゆくとぬたはちしぬきりすの留てふてな

とてふしぬきりすの留てふてな
りけしむせをなのちるまはつ支那のちるまはつ
強神はぬきりすの留てふてな
しぬきりすの留てふてな
名録國名と強せんしぬきりすの留てふてな
需むさるる強かちぬきりすの留てふてな
世に強りしぬきりすの留てふてな
ぬきりすの留てふてな
はるゆきんぬきりすの留てふてな
あつ玉れ強りすの留てふてな

少平は虎よりあまの度のきれは幸あまの
 さむらゝの葉の通司けりの業にゆふの葉を
 おろりたる葉しそのうの葉のほの葉を七
 ふるふ葉したる葉しその葉のほの葉を
 小るゆえたる葉したる葉しその葉のほの葉を
 四所の葉したる葉しその葉のほの葉を
 なるゆえたる葉したる葉しその葉のほの葉を
 のこしたる葉したる葉しその葉のほの葉を
 乃其浪葉の葉師玉山教るすすす



寛政六甲寅歳六月吉辰

大坂心齋橋通南久寶寺町

高橋平助

大坂高麗橋上人界

大西甚七

京御幸町御池下

藤井孫兵衛

江戸通本町三甲目

西村源六

同右同町

雁金屋治右衛門

書林

